

第30回アーツ前橋運営評議会 指摘事項等

1 主な意見

- ・正規事務職員に比べて学芸員は任期付きや準常勤が多い。
今後は学芸員の正規を増やしていくということをお願いしたい。
- ・半年や一年で結果は出ない。これには5年から10年が必要で、どのように市の発展に寄与してきたかを判断する必要がある。
- ・「ニューホライズン」は、半日で全部観ることができ、映像だけでなく他の形式も含め良かった。宿泊したという声も聞いたことから、市への経済効果もあったと思う。
- ・「ニューホライズン」展がエッジの利いたものだとすると、「前橋の美術」は前橋にゆかりがある作家で構成している点で地域に根差したもの。グローバルな視点と、ローカルな視点を継続してどちらも大切にしていくことが必要だと思う。
- ・美術品を収集しなくてもいいような意見が出やすいが、美術館が収集することは美術振興であり作家の支援であり、周辺の経済効果にもつながるということ踏まえ、購入を続けていくための条件として収蔵庫も含め環境をどう整えるかを考えほしい。
- ・ラーニング・教育的な視点をどうしていくかは課題が山積していると思うが、持続的な鑑賞者を育てるために外せない視点である。中学・高校の部活レベルの招待など細々とでもつながるアイデアを出し合っていけたらと思っている。

2 対応

- 1) 正規学芸員の採用
 - ・学芸員（任期無し）試験の実施（令和7年4月1日採用）
 - ・正規学芸員（任期無し、任期付）、準常勤
収蔵管理、調査研究、展覧会実施、地域AP、教育普及
事業内容・事業量を鑑みた計画的な人員配置
- 2) 美術館の地域への寄与
 - ・展覧会、収蔵管理、地域アートプロジェクト、教育普及事業
インターンシップ・職場体験受入、出前講座・大学講座・絵画展審査員派遣
- 3) 地域性と国際性（南條特別館長が掲げるミッション）
 - ・バランスを考えた展覧会や各種プロジェクトの実施
令和5年度 コレクション+展、ニューホライズン展、前橋の美術 2024
令和6年度 リキッドスケープ展、はじまりの感覚展
- 4) 作品収蔵管理
 - ・令和6年度美術品購入予算 200万円計上
 - ・収蔵環境の整理
- 5) 教育普及・ラーニング
 - ・教育委員会との連携
先生のための無料招待ウィークの実施（継続）
教育委員会との連携（図工美術主任会（4月）、研修会（7月）受入）
部活動の地域移行（毎月第2土日、展覧会・イベント等の情報提供）
 - ・学校視察等の受入（令和6年度 大学等5、高校等1、中学4、幼稚園1）